鎮守の森は奈良県指定天然記念物

シリーズ・まちの文化財　第五回「志都美神社の社そう」

今泉にある志都美神社は、長い参道が続く静けさ漂う古い神社。どこか歴史を秘めた風情のある古社のたたずまいが印象的な一画にあります。ひっそりとした境内に入ると社殿があって、その背後にうっそうとした森が広がっています。社殿の前には狛犬が一対、競うように三本のシダレザクラが咲いています。また、社殿の右脇には見上げるように大きなホウライチクが見事な姿を見せています。

志都美神社は江戸時代の書物『大和名所図絵』などに「志美都八幡」と出ていますし、また、「清水神社」とも呼ばれていたそうです。それは旧境内地に清水が湧き出でていたこと、その清水が眼病に霊験あらたかだったことなどから、名付けられたといわれています。実際、すぐ近くに、現在も地下水を用いて酒造りをしている造り酒屋があることからも、この付近が水の豊富な地域であったことがうかがえます。

ところで、この由緒ある志都美神社の社殿背後に広がる森（社そう）が、

貴重な自然が保たれているということで、奈良県の天然記念物に指定されました。

社そうは主にコジイ（ツブラジイ）が優勢な林となっていて、他にアラカシ、クスノキ、サカキ、スギ、ヒノキなどの照葉樹で構成されています。コジイ林の高さは二〇メートルほど、コジイの最大木は胸高幹囲二・一五メートルもあるそうです。林内には、ヤブツバキ、アオキ、ヒサカキ、シャシャンボ、シロバイ、カクレミノ、リョウブが、また林床には上層木の幼樹の他、イヌマキ、さらにベニシダが優占して生育しています。

志都美神社の森は、近年の宅地開発による市街化の進行と自然が失われていく中において、北側にある武烈天皇陵傍丘磐坏丘北陵の樹そうと一体となって、自然林として残されています。巨樹は少ないけれど、見事な林相が形成されていて、学術上きわめて貴重なものとなっています。貴重な緑の資源は、いつまでも大切にしたいものですね。